

1 / 15
赤口 土

旬のもの 小豆(あずき)

かつて日本や中国、朝鮮では、小豆は食物である前に、その美しい赤色が呪術的意味をもち、古くから魔除け、汚れ払いなどに多く用いられました。小豆に含まれるサポニンには溶血作用があって、血栓(血のかたまり)を溶かす働きをもっています。そのため、昔の人は産後の肥立ちが悪い女性に小豆粥をたべさせました。また小豆に多く含まれる鉄分は血液の原料でもあるので、その供給にも有効でした。そして小豆にタップリ含まれるビタミンB2は、体内の代謝を活発にする働きをもっています。そのため、皮膚を美しく保つのに役立ちます。

半襟の日

1月は1年最初の月で襟を正すことに通じ、また、1月15日は長い間「成人の日」として親しまれ和装との縁があったことから、京都半衿風呂敷和装卸協同組合が2001年4月に制定しました。

小正月

元日を中心に「大正月」、15日を中心に「小正月」と呼び、15日は旧暦の正月に当たります。「女正月」と言って女性の骨休みの日とする地方もあり、暮れから正月にかけて忙しく働いた主婦をせめて1日でも家事から解放してあげようとねぎらう意味が込められています。

1 / 16
先勝 日

旬のもの 伊予柑(いよかん)

蜜柑の一種。ナツミカン系統で、山口県で発見されましたが、明治中期から愛媛県で栽培され、同地方の特産となったため「伊予蜜柑」と呼ばれるようになりました。その後、愛媛産の温州みかんと同様と混同されるため昭和初期に「伊予柑」と改称されました。果実は1個250gくらいで、果皮の厚さは8mmほどと厚くなっていますが、皮をむくのは簡単です。9~11室に分かれ、果心は大きく、簡単に開きます。果肉を包む皮は厚くて堅めですが夏みかんなどに比べて柔らかく食べやすいのが特徴です。

閻魔詣り

仏教では1月16日と7月16日を「閻魔賽日」と呼び、地獄の釜の蓋が開いて鬼が仕事を休むので亡者も骨休みできるとされています。各地の寺院では、十王図や地獄相変図を拝観できるよう閻魔堂を開帳。昔は奉公人が休みをもらう“やぶ入り”の日でもあったため、多くの参拝者で賑わいました。

囲炉裏の日

「いい炉(1・16)」の語呂合わせから、囲炉裏の愛好家らが制定しました。最近では、囲炉裏を囲んで温かい会話を楽しもうと囲炉裏のある宿が人気を集めています。